





對馬の代書

おの君のさきさきしるしのすぢ

とま

とめたりしれもあやむは

ちよ

しほの御座能事れし事 登紫

松の慶と宮ふ 羽筆

日二

雲梯と下下の川の糸ふよ 赤紫

さる人のよあはしとよよ ちよ

一んものうきあはしとよよ ちよ

えんちの御座能事れし事 ちよ

灯とさるすぢと松のさき 二

お舟のさるも松のさき ちよ

帝をさる日とさるしと松のさき ちよ

おも孫とよあはしと松のさき ちよ

は事しと松のさき

しと松のさき

家の驢馬のくりこと

あしと松のさき

句のしと松のさき



鉄肝と梅と白  
卯と探り

桑二畔

貞佐

考わ十七季のり

八千代尼句集乾

口感旦

福重也庵  
あはるの月夜  
あまの夜の長  
かきとく  
かきとく  
かきとく  
かきとく

癸卯二月廿九日

貞佐

しと一目かえる梅の露  
新く袖たまたまの平  
鶴の尾の筋の山崎  
針の糸とく  
肩の骨とく  
膝の骨とく  
膝の骨とく

沾徳

貞佐

沾洲

音峨

貞佐

沾徳















梅の香を新く香苑の

歌うゝ じりの尻生やを庭磨坊 硯魚

梅の香を仙史の

心め、香ふ軒ゆきや乃心若 文楸

ゆき女

百梅のちりまら里や出師の里 仙衣

梅の香を二河の

心免あやいや角弓の柔句互 雁山

流雲の三章

こころや梅の香と下新竹 雁山

梅の香を三章

年頃のちりまらと喚やるけき梅 甲陽 帯江

梅の香を三章

昔免あや卵塔のあかみ 治霞

梅の香を三章

先才くじり芳た手向う那 巴水

梅の香を三章

梅光梅の香や貝の玉とせしけ

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

梅の香を三章

今考ふ世子を記薫りや墓の梅 序令  
香を三章 一り力、おん 橋 貞佐  
名流小雛の小窓の斜 千里  
燭の香へ凡くあき 琴風  
遊むとて晴る月の皺 晋如  
毛 暮るふのこやこよみ 咲 治洲



うらわいも七座をき  
そのりもこの非

柳

若くは雪を流ひ

柳

雪の夢ひさし

柳

古柳の地の早も

柳

雪の流せを流ひ

柳

青柳の河下

柳

雪と解ゆ

柳

流ては根より  
柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

口情や店賃と出角力丸  
貞佐

壘の座乃月ッ口より紀  
序令

業は実の纏も果は李時  
琴佐

友か〜〜い〜苗弁乃笛  
百里

菟川の筭盤とより関ヶ原  
法阿

行十郎ける珠敷の明古門  
晋如

法元の發地あす寸立せり  
彦令

馬舟目尻の馬帽子あはれ  
琴佐

さむらゐる情多女乃申次  
百里

聲あおれ花もせん出勝  
法阿

こま鳥、蓋元如葵立く  
晋如

三日の音何〜さまの燈  
貞佐

病とふてつさあ〜〜龜らや  
琴佐

何の觸れ〜〜報を〜〜つさり  
百里

友地の仕忌子回〜〜長階着  
法阿

神子扇乃内あ〜〜ら〜〜  
彦令

うつ波と幽ふ〜〜梓の下  
貞佐

そ窓へ〜〜お柳〜〜落〜〜元  
晋如

一人も胸すか出〜〜け躁〜〜く〜〜  
百里

明ひらけ〜〜る 吾の豆腐屋  
貞佐







みりこの法原

折りて花をき  
蜂も法りの場

物思法書

夏まてお時別を

鹿子の患

海を方せ雪なり

逆少と插の患

法平る幾節法

ののの

風 霞 山吹

山吹

山吹と花と歌句  
凡中

ささふ花をき

山吹

折りて花をき

山吹の法原

ののの

山吹の法原

山吹

山吹の法原

山吹の法原

山吹

の香の確球、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭

山吹の法原、馬の荒りと  
可圭







晩鐘とて元よ  
おのちの他れは

経舟のほろり  
かきさくうらな

花の横まきとて  
そらにほろり

ふる人も老相な  
かりまらうらな

ゆゑ入のーたりの  
柳々山さうら

花字々人の花ハ  
こまをのり

たまにれそあて  
まらうらな

あくとも但樂子の人丹後編 可圭

雑子

やよ籠子か路うら如周年 釣七

わらうら以籠の志うら石の端 湖常

ち和路や山伏さー籠の志 歩石

ことまーをさ越の籠なる 調柯

あゆとくさー梅はる 夜霜

言んゆもさつさ梅と渡河班 機風

耳子あて口よ信くさ梅あり 沾岳

如梅原や鹽の先子籠の志 母谷

あつこうーあて  
おのちの山橋

ふんぬものさうら  
よりぬー横花

子細  
うち外とさうら  
はらう神の花

画賛  
さうらさうら  
さうらせぬ花さ

あし井手北山あしとり小土窓 又魚

あお糸布の砂志さうらあつら 貞佐

まもせ金堂へ機娘も東洋極く 古井

下元の母上 花のふ苗さ 沾各

疲なく月もさー入る旅履 井魚

燈葉と犯ス 樋の口れ者 沾洲

角力子も踏に成る花橋の志 度江

たすたり本家丸ー女郎尻 又魚







深千

大汐の生 結と向 乾十三 根

夜江

吉柳のしる 籠き

柳の葉や 菊矢の札に 立ちあ

古井

しほひの 子

根身 宿り 菜子 まきと 飯

欠代

捨つ物 活物

みどり子の 熱中 一 替幣

又魚

しほひの 子

藤の 花と 俊ふ せ 乃

沼谷

海老の子 習志

蝶の 出く 鼓もう 上 春の 天

筑紫

まひの 子

祝と 乃 乃 乃

祝等

蝶の 乃 乃

祝と 乃 乃 乃

祝等

祝と 乃 乃

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

籠

徳宇

貞佐

沾岳

即亀

喬谷

徳純

青峨

祝等

祝等

祝等

祝等

祝等

祝等

祝等

祝等

祝等







中書

物有方好  
入る者ひかり

おしひの

くまの

あつた

あつた

あつた

名月と屋中へ行く 昔ふく

あまの

切四下の

信子女と

仇と

探ら

畚と

良龜

徳字

和巳

書

徳字

法岳

徳純

徳若

○燕

上

の

の

の

の

の

藤

公

か

庵

幸

虎

内

弘

前

泉翁

東里

蓮雨

尺樹

半麟

大阜

桂夕

不有

陽風



上巻七巻と云

性希て其表

ゆり 浮世の

のそり州

多州の物の衆

起りて其

送る

多州の物

ふりて

社神あり

皆もそり

あつて

あつてと云ふ身もあつては

覺しよな目もけけや

行ふあの上と云ふ

履あつてや

祈りて

寺との豆腐

森一僻や

面白

物活の香に

郁文

鯉尺

風之

貞佐

沾升

乱絮

雪川

也流

倫里

孤山の

と云ふ

も松を

吹けり

あつて

二つ

月の

活を

物も

半

と云ふ

花

此酒、恒川へ

あつての

ちり

指標の

と云ふ

花

月並の

は

元

竹苞

宜雨

治旭

蜂蓋

竹巴

菊丸











杜若

水の書く水の  
清くも杜若

清のまのまの  
かまらう

新書のあまの  
やのまのまの

のあまのまの  
まのまの

まのまの  
かまらう

新とまのまの  
利口もわか  
月昏も  
臺の鞭も  
一節も  
あまのまの  
うつと  
新とまの  
集めと  
水へも

いせき  
神はうけ  
判乃落  
馬まの  
醒しり  
あまの  
引つ  
穴有  
とまの  
物犯の

青  
百里  
長  
仙  
琴  
梅  
心  
欠  
百  
大

子  
里  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

梅  
子  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

梅  
子  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

梅  
子  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

梅  
子  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

梅  
子  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

梅  
子  
あ  
里  
子  
里  
里  
鼻

酒佛

酒のまのまの  
いせき

好むつりの  
物も

酒のまのまの  
いせき

酒のまのまの  
いせき

酒のまのまの  
いせき

酒のまのまの  
いせき

酒のまのまの  
いせき

其花

借せとら  
己も  
系ゆ

祝の  
まの  
まの

花の  
まの  
まの

信あり  
まの  
まの

吐  
まの  
まの

山  
まの  
まの

花  
まの  
まの

海  
まの  
まの

山  
まの  
まの

風子

蘭亭

薰和

壺月

風竹

潮平

儀樽

貞佐



新子  
おしり  
床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

花の名は忘れ幕の巻が

名つりりと花の初と新し

花の巻は花の巻の巻の巻

巻の巻の内は月松の声高

巻の巻は花の巻の巻の巻

山菜や一巻を巻く巻の巻

巻の巻は花の巻の巻の巻

織物乃の巻の巻の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻の巻

文口

如蝶

由子

如真

友以

百尺

角調

初菊

仙下

梧夕

新子  
おしり  
床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

床すり

騷人の巻は花の山  
や梅の巻は幕の巻

牡丹

耳朶も大なる牡丹は

巻の巻は花の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻

巻の巻は花の巻の巻

吸月  
超巴

今宵

星

琴月

只尺

治山

風里

文里







水詠

あつたはるも病て  
くろいふ

心算

下宮にみよすれ  
とれは

あのみさやうし  
堂とま忘れ

川ありは流て  
ほり

舟能十一也教者やほり

うしは流の帳もまら時鳥

十二支と乃とまら如杜鵑

子の杭の杭もまら如井

梅啼や弘法あまほり

第一目もほり也新はま

時鳥とあまら古年仲万外

心の子も海生一平白木老

蜀祝しと流らまら如物

臨自とまら新は時鳥

一村人のあまりてほり  
山の子乃かくくまら

川楊

戎子

適志

井奥

貞佐

扇樂

白鷗

一葉

蝶汎

薰洞

出歌

茶と針の心同衣  
いろは

首蒲

流るるも如  
そのりあまら

春まら見あふ  
あまら

流あまらうら  
あまら

風らりもやの  
ののを

流あまらうら  
あまら

茶と針の心同衣

能き厚き袖信ふの如く

あまら人他村へまら

九い寺の一角あまら

あまら酒め竿まら

まら物まら玉場まら

あまららんまら一膚

まららまら死らけ

神は耳まら

後凋

貞佐

壺峰

風夕

雨橋

詠而

如格

如頁











の藤屋

うらなひの藤の  
うらなひの藤の

藤と岩を繋ぐ

切のいし

浮きよき根の

ゆく藤の

藤の

咲きよき

藤の花の

遊ぶ藤の

食ふハ規をりよおし人

肩 綯 一 一 一 花の焼米

此は只 罌粟こそ出ぬ九菘子

月光 不こ子 隣子 一 一 一

曲幕ハ 一 一 一 白大般 一

鶴乃 中 智 五 百年 一 一

回し 一 一 一 魚と 一 一 一 古采女

抱仙の 一 一 一 吐 一 一 一 鮮

胸の 月 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

和推

欠作

徳純

沾山

欠作

和推

沾山

徳純

和推

欠作

の氷室

源一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

蓋 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

氷 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三島 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

佛の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

音 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

音の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

相子 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

乞 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

沾法

徳純

沾山

欠作

和推

沾法

徳純

沾山

沾法

和推



〇 細線

杉の葉も

よきとくすッ

涼しき指くひ

吹あまき葉

涼風が押れ右

よきとくすッ

涼しき指くひ

涼しき指くひ

涼しき指くひ

丹珠の貝売地 形鉄の片

沙鷄 掠めり 土弓 旗 把

汚くすも 見えぬ 母の腕子 疵

作理の 従弟も 何れも 狂れ

一息子 市子 心ん ともん

わづら子 消して 粒 吹 漆

玄妙の 鼻 心 の 咲き けり

表 向 丁

治山

徳純

永雄

信徳

貞信

徳純

治山

祝守

秋房の歌々

そくそく涼風

産後の金涼

道別

なごみの道中時々

涼しき指くひ

〇ハナノ歌々

涼しき指くひ

ハナノ歌々

涼しき指くひ

涼しき指くひ

むす 傍き 聲と 品と 寸と 寸

着の 草下 瓦 侍

物 破産 俗と 味 家

鼓 羊 河 柳

月 子 馬 鴨 子 子 子 子

後 けり けり けり けり

卜仙

真佐

氷花

雁山

長水

文石



あすり

源風の桂下

伊勢の合野

あすりの内

白雨

夕立の夕

日和山

夕立の辛雨

中の一

あすり

象と豆と 漢方高灯籠 欠作

さい 柘枝と 河を舟傾城 下伝

可し 目の信と 中へり 脊擔 肩心

相成るぬか 藤の 舟の集 少毛

と 食と 湯乃中 ちかく 欠作

あすりの自由と 見よ 買を 下伝

と 鼻と 羽ふれ 生れ 暫古 欠作

敷の子の座と 真も 糸乃 欠作

膝上げ 乃 古門と 漱 肩山

○ 雲之峯

眼まき

松風と 撫ぐ

あすり

あすり

あすり

あすり

あすり

あすり

あすり

あすり

あすり

あすり

向白の柳を 男伊達 欠作

ア金の糖と 毎の 欠作

いると 膳と 摩と 欠作

アけと 色と 糖と 欠作

下間と 子と 四門と 欠作

あすりの 玉と 欠作

あすりの 山と 欠作

あすりの 欠作

あすりの 欠作

あすりの 欠作

あすりの 欠作

あすりの 欠作







喜如字

清水のまきも

衣とすけり

のまきの月

新竿乃糸

こと何

若れ月

涼し水も葉出巨膚上総浦

研人も川の橋存や夕涼

能く地と信く因りむ地

一りと少く先陰の遠言と

涼し水も唯心よそ水角公浦

あな子を千浮るり夕涼

蓮

蓮の糸手もあなんく

足袋や水舟もく蓮舟も

はすの葉もくもくもくもく

泊谷

長松

賀角

巴中

林車

古井

朝梢

麻せうりくく高もくくと蓮の舟

雪の石水大舟とくお蓮舟も

行くも水舟カもく蓮舟も

かく水舟くく水舟は蓮の上

蓮の舟も一刷毛低くく

蓮の舟も水舟とくく

蓮の舟も水舟とくく

蓮の舟も水舟とくく

蓮の舟も水舟とくく

蓮の舟も水舟とくく

芦文

一羽

午風

古鈴

拍水

曾夕

芝光

者川

對而

柳我



お新くは柿と 美人道のお  
 明れさうりれりやまの鳥  
 竿いりる ④のち柄や蓮百歩  
 走くアる花の君や芝青  
 剛せり水つり、蓮せん書うる  
 出まじ、沼さる花の蓮か  
 藏六 沾帯 雞口 也聴 何虹 貞佐

乾坤正打破と作  
 蜂多しと解ふぬ也  
 あり世くる也

乾坤正打破と作  
 蜂多しと解ふぬ也  
 あり世くる也

燕々軒

一 持ふはるきとめく 甚るんか  
 解一切より 権柄の羽鳥  
 あり人形 先能く、精口と出く  
 學如名、録如ゆりく  
 友より人 鼈取すり、月まふ  
 三〇 山田いりくく くらり  
 貞磨 貞佐 秋浦 和風 童翁 拾翠



杖角は光と結ぶ彦彦舟  
 蓮雨  
 中々アムけいを富きとの傍  
 椿井  
 猶湯は沸く人々と控也  
 躑竹  
 紅地のみくし袖より出る  
 琴西  
 此意は膚と纏の月くれり  
 執事  
 指しもあつた指すも極し  
 秋濁  
 裁て弃切てをそよお想は但  
 欠位  
 蛇打圍して吾じにそのまき  
 結着  
 納涼の青圍あつたみは  
 如月  
 有るぞぎの顔  
 葉取  
 欠磨

花雪静る雪の何の守  
 横井  
 筆とらまはね祝いのうら  
 清舟  
 曲水の流るる花酔の朱  
 秋菊  
 胎内 階里 花後 せん橋  
 芭蕉  
 印んまむじとて見せの古河津  
 指琴  
 二の巻くくくく角のあつた  
 欠位  
 刺ラせうの男にせうりまの松  
 琴西  
 ちつたの脈かぶらつた  
 横井  
 形象のついでもあつた  
 欠磨  
 汗の靡とたを  
 初凡  
 拾琴



恒方凡の危る知は混若土  
 々々々々々々々々々々々々々々  
 膏木子口紅粉かつく之日の月  
 六相器了も恒はあ〜し  
 物見切己とや〜し  
 樂但い何れ聖國る〜し  
 心〜あ〜ふ〜あ〜あ〜あ  
 菊菊ハ石子へげし 芝堂  
 心るあ〜あ〜あ 仁獻の形  
 蓮西 法書 澄竹 和持 法書 欠磨 梅井 琴音 欠佳 蓮西



大化十三年閏月  
 大化十三年閏月  
 大化十三年閏月  
 大化十三年閏月

左馬田村

川津夜直の

虫の跡の文方七十七名

西太  
 西太  
 西太  
 西太

今更の之を  
 今更の之を  
 今更の之を  
 今更の之を



